

「海幸山幸伝説」教材化について(1)

—小学校使用テキストの開発—

永吉寛行¹・内田千晴²・明利尚美³

要旨

小学校学習指導要領国語科における「神話」に関する指導事項や改訂教科書を検討の結果、宮崎県独自の神話教材として海幸山幸伝説が相応しいとの先行研究から、学校現場の実態に合わせて教材範囲や「ヤマ場」箇所の設定までの研究成果を踏まえて、実際の教材化を試みた。

1. 本稿の目的

永吉は、日向神話の教材化についてその条件整理の考察を行っている¹⁾。最終的な結論の主なものを再掲すると次の通りとなる。

- ①題材は海幸山幸伝説が相応しい。
- ②適当な分量 (約 1,500 字)
- ③小学校2年生相当の言葉遣いや用字
- ④独特の語り口調や言い回し
- ⑤起承転結や中心人物の成長などを取り入れた「ストーリー性」「完結性」
- ⑥学習活動の設定
- ⑦神名は「ウミサチ」「ヤマサチ」あるいは「海さち」「山さち」
- ⑧ストーリーは山幸彦が人間界に帰還するあたりまで

以上は教科書への採録状況に鑑みて、小学校2年生の教材を想定して整理したものである。しかしながら宮崎大学教育学部でも推奨している小中連携・小中一貫等のコンセプトに照らしても、また、中学校学習指導要領(国語)第3学年〔知識及び技能〕(3)アの指導事項「歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。」があり、日本の始原的な歴史として語り伝えられてきた「古事記」を教材化して生徒に提供することの意義から考えても、上掲9条件について③を除いて中学校3年生向けに教材提供をすることの意義もあると考えた。従って、本研究では「海幸山幸伝説」について小学校2年生向けの教材をこれまでの研究成果に基づいて開発、提示し、中学校3年生向けの教材提供は別稿に譲ることにした。

なお、本稿の作成に当たっては、上記永吉の整理した条件に基づき、宮崎大学教育学研究科教科領域指導力高度化コース科目である「言語教育系内容開発研究ⅡA」受講者2名が担当した。主に全体整理を永吉、テキスト作成を明利・内田が担当したが、本稿の完成までにはほかに国語専修の大学院生2名と、教育学部派遣研究生1名の計6名全員で随時検討を行って成稿としたものであることを付け加えておく。

¹宮崎大学教育学研究科

²宮崎大学教育学研究科教職実践開発専攻教科領域指導力高度化コース

³宮崎大学教育学研究科教職実践開発専攻教科領域指導力高度化コース

2. 小学校用テキスト「海さちと山さち」

小学校用テキストについては、後掲の単元指導計画の通り、小学校第2学年での使用を想定している。従って、テキストで使用する字体も検定済み教科書を参考にするなどして、UD デジタル教科書体・16 フォントで作成している。また、挿絵については著作権等の関係で本稿では「どのような挿絵がその箇所に相応しいか」という視点のみの言及にとどめた。学習指導要領においては「読み聞かせを聞くなどして」と第1学年及び第2学年〔知識及び技能〕(3)アにあることなどから、図書館所蔵の絵本などで絵を児童に見せるなどして随時対応してほしい。

場面について、全体を4つに分け、各場面の先頭行に丸数字①～④を振っている。通常教科書本文においてはこのような数字は振らないが、指導の便宜を考えてあえて記したものである。

漢字については、児童に配付、音読等をさせることも想定して、学年別配当漢字を使用することにしたが、児童が自力読みをすることも考えて適宜ルビを振った。

最後に、本テキストの最終部分について説明をしておきたい。

『古事記』等では、この海幸山幸伝説について、海幸が山幸に服従を誓ったこと等が描かれており、本テキストはその原典とは若干の相違が見られることは否定できない。しかしながら、以前永吉が、『『家来になる』を『謝罪する』というニュアンスで書き終えるのが道徳性を持たせる教材としていいのではないかと判断している。』²⁾と述べたように、「道徳性」という観点から本テキストは、海幸は山幸に「あやまりました。」という行為をしたという書き方にするとともに、「海さちのめんどうもみてあげるようになりましたとき。」を締めとした。この点、各学校現場の判断にお任せしたい³⁾。

さらにテキスト掲載後に単元指導計画を開発、掲載した。「好きな場面を選び発表する」「音読活動を行う」等の言語活動を設定し、それを通して我が国の伝統的な言語文化に親しむことができるよう配慮した。

【資料1 (教材)】

海さちと山さち

①むかしむかし、海さちと山さちといっ
きょうだい

兄弟がいました。海さちは海で魚をとって

くらし、山さちは山でけものをとって
くらししていました。

ある日、弟の山さちは 兄の海さちのように海で魚をとって
たいと思いました。そして海さちに、

「おたがいに つかっている 道ぐを とりかえましょう。」

と、言いました。海さちは なかなか いいへんじを しませんでしたが、そ
れでも 山さちは 何回も たのみ、 ようやく こうかんして もらいまし
た。

②その後 山さちは 兄の つりざおを もって海へいきました。しかし、
いつまで たつても 魚は つれません。 おまけに 海さちにかりた つりば
りを 海の中 でなくして しまいました。 山さちは、海さちに、

「ごめんなさい。 兄さんにかりた つりばりを
海の中 になくして しまいました。」

と、あやまりました。 しかし、海さちは
それをゆるさずに、

「かならず かえしなさい。」

海幸が海にいる
山幸が山にいる挿絵

山幸が泣いている挿絵

けん

と、言いました。そこで山さちは 自分が いつも もっている 剣をつぶ
して、五百本もの つりばりを 作り、海さちにかえそうと したのです
が、海さちは うけとりません。次に 千本いじょうの つりばりを 作っ
たのですが、やはり海さちは うけとらず、どうしても、かした つり
ばりを かえせと 言うのです。こまった 山さちは 海べで なき、かなし
んで いました。そこへ、ろうじんが あらわれ、

「どうして ないているのかね。」

と、たずねて きました。山さちは、

兄の つりばりを なくして しまい、

兄がゆるして くれないうことを

話しました。すると ろうじんは、

「それは かわいそうに。 それでは ふねに のって しおに ながされながら
どこまでも 行きなさい。すると 海のかみさまの きゆうでんが 見えて

きます。そこに行けば、海のかみさまの むすめが あなたを たすけ
てくれるでしょう。」

と、教えて くれました。

③山さちは 教えられた とおりに 海のかみさまの きゆうでんに行き
ました。すると 海のかみさまの むすめと 出会い、父である 海のか
みさまにも 気に入られ、海のかみさまの むすめと けっこんすることに
なりました。

老人に会う挿絵

海の神様の娘と結婚した挿絵

そして、三年がたった時に山さちは海のきゆうでんに来た もくてき 目的を思い出し、海のかみさまに兄のつりばりをなくしたことをそう
だんしました。海のかみさまは海にいるすべての魚をよびあつ
め、

「つりばりをのんだものはいないか。」

と、たずねました。すると、

「三年ほど前からタイが、のどに何かささったと
なやんでおりました。」

と、へんじがかえってきました。そして

つりばりが のどにつかえていたタイを たすけ、

つりばりを見つけることができました。

山さちが 帰る時、海のかみさまはこう 言いました。

「そなたの 兄につりばりをかえすとき、ただわたしはいけません。」

ぼんやりばり

いらいらばり

びんぼうばり

くるしみばり

と、おまじないをとなえながら 後ろむきにおわたしなさい。」

と、つりばりといっしょに「しおみつたま」「しおひるたま」という二つ

の玉をくれました。その玉は海の水をあやつることのできる玉

で、しおみつたまは水をふやししおひるたまは水をへらすこと

のできる玉でした。そして山さちは、海のかみさまにおれいを言い、

タイから釣り針
を見つけた挿絵

わにに のって海さちのもとに 帰りました。

④海さちのもとへ 帰ると、山さちは海のかみさまに言われたとお
り、

ぼんやりばり

いらいらばり

びんぼうばり

くるしみばり

と、おまじないをとなえながら、後ろむきに海さちにつりばりをかえ
しました。

その後 山さちがおまじないをとなえたことにより、海さちはお

かしの ように海で魚がとれなくなってしまいました。田んぼをた

がやしても ぜんぜんいねもみのりません。そのため海さちは どん

どんま ずしくなってしまうました。おこった海さちは 山さちをうら

みせめよせてきました。そこで 山さちは しおみつたまとしおひるた

まを 使って水をふやしたり へらしたりして海さちをこらしめまし

なんど

た。こうしたことが 何度も つづいたので、海さちは どうとう

「どうか ゆるしてくれ。これからは あなたを ずつとお守りします。」

と、これまでのことを 山さちに あやまりました。それから、弟の

山さちは けつこんした海のかみさまの むすめを そばに よんでしあ

わせにくらし、海さちの めんどどうも みてあげる ようになりました

とき。

おまじないを唱えている
挿絵

山幸と海の神様の娘と海幸が三人仲良く暮ら
している挿絵

【資料2（指導資料）】

海幸山幸単元計画案

【好きな場面紹介パターン】

指導計画(全2時間)

(1) 神話について知る。—————1時間

導入 (10分)	① 海幸山幸が元になった「浦島太郎」について知っていることを話し、「浦島太郎」のあらすじを確認する。 ② 日本には神話があることを伝え、青島や鶴戸神宮の写真を見せる。
展開 (30分)	③ 海幸山幸の読み聞かせを行う。(10分) ④ 好きな場面を選び、理由を考える。(25分)
終末 (5分)	⑤ 次時の見通しをもつ

(2) 好きな場面を選び、発表する。—————1時間

導入 (5分)	① 前時のふりかえりと本時の見通しをもつ
展開 (35分)	② 選んだ場面の場面絵を描く(絵日記的な) ③ グループで発表する
終末 (5分)	⑤ まとめ

イラスト

選んだ理由

好きな場面
すがするところ

【音読活動パターン】

指導計画(全2時間)

(1) 神話について知る。————— | 時間

導入 (10分)	①海幸山幸が元になった「浦島太郎」について知っていることを話し、「浦島太郎」のあらすじを確認する。 ②日本には神話があることを伝え、青島や鶴戸神宮の写真を見せる。
展開 (30分)	③海幸山幸の読み聞かせを行う。(10分) ④音読したい場面を選び、グループで練習する
終末 (5分)	⑤次時の見通しをもつ

(2) 好きな場面の音読発表をする。————— | 時間

導入 (5分)	①前時のふりかえりと本時の見通しをもつ
展開 (35分)	②音読したい場面を選び、グループで練習する(10分) ③グループごとに発表する(6グループ×5分)
終末 (5分)	④まとめ

【神話紹介、調べ学習パターン】

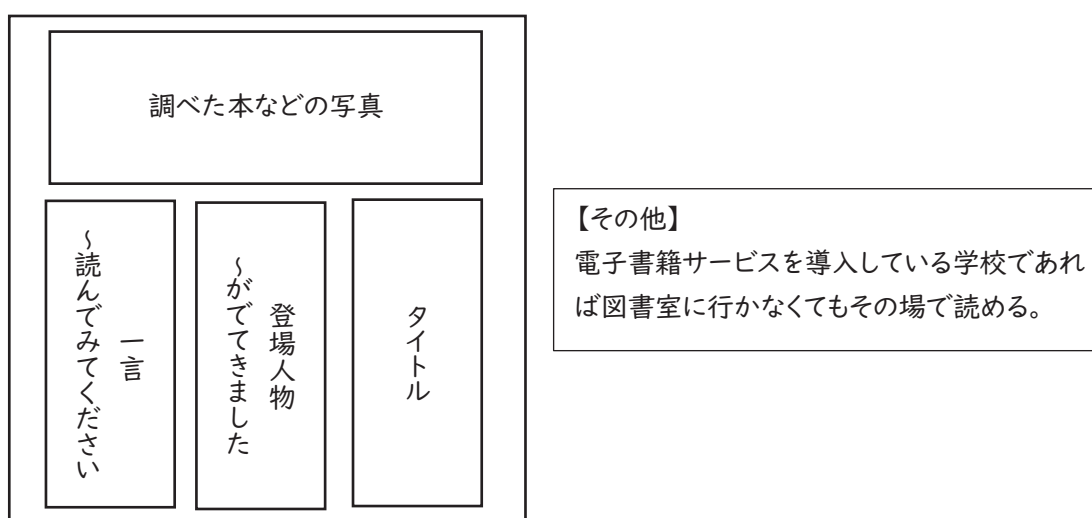
指導計画(全3時間)

(1) 神話について知る。————— | 時間

導入 (10分)	①海幸山幸が元になった「浦島太郎」について知っていることを話し、「浦島太郎」のあらすじを確認する。 ②日本には神話があることを伝え、青島や鶴戸神宮の写真を見せる。
展開 (30分)	③海幸山幸の読み聞かせを行う。(10分) ④タブレットで他の神話を調べる
終末 (5分)	⑤次時の見通しをもつ

(2) 神話について調べ、紹介する。————— | 時間

導入 (5分)	①前時のふりかえりと本時の見通しをもつ
展開 (35分)	②海幸山幸の続きやどんな神話がほかにあるか調べてまとめる(ワークシート) ③グループで発表する
終末 (5分)	④まとめ



(3) 図書室に行って神話を読む。————— | 時間

導入 (5分)	①前時のふりかえりと本時の見通しをもつ
展開 (35分)	②図書室にある神話や民話を調べ、読む(じっくりよむ)
終末 (5分)	④まとめ

3. おわりに

前2回に渡って、古事記の小学校国語科用の教材化について、その条件整理・考察を行ってきた、その成果が本稿である。最も腐心したのは、表記や用字、言葉遣い等について適切な状態にすることはもちろんであるが、それと同等の重みを持つ判断は、その切り取り箇所であった。これまでの研究成果や先行出版絵本などから、本稿での箇所を終了箇所にするにはやむを得ないとしたが、それでも宮崎県の郷土資源であることを考えると、果たして鶴戸神宮や銀鏡、あるいは宮崎神宮や美々津まで教材化しなくてよかったのかという課題が残された。またそれは、伊邪那岐・伊邪那美、神楽等で伝わる天照大神の部分についても同様である。いわゆる教育的配慮と伝統的な言語文化との適切な融合を今後も模索していきたい。

注

- 1) 永吉寛行(2021)「日向神話教材化への基礎調査—小学校第2学年「伝統的な言語文化」の指導イメージから—」『宮崎大学教育学研究科教職大学院年報』1, pp. 21-24、永吉寛行(2022)「日向神話教材化の試み—宮崎県小学校向け「海幸山幸伝説」テキスト作成について—」『宮崎大学教育学研究科教職大学院年報』2, pp36-42
- 2) 上記注永吉寛行(2022)
- 3) なお、本テキスト作成に当たっては、『国語指導必携 小学校 古典指導の基礎・基本』(田中洋一 2010年、加藤文明社)、『決定版 心を育てる松谷みよ子の日本の神話』(渡瀬昌彦、2020年、講談社)の2書を参考にさせていただいた。深く感謝申し上げます。